

街角ニュース

◇瀬戸の歳末海鮮市が開催見送り 瀬戸市南山口町の尾張東地方卸売市場を運営する尾張東流通センターは8日、毎年年末に同市場で開く「歳末海鮮市」の今年の開催を見送ると発表した。新型コロナウイルスの感染防止のため。海に面していない尾張東地区の住民らの年末年始の食卓に新鮮な海産物を届けようと始まり、これまでに13回開かれてきた。同センター企画部長の鈴木節男さんは「全く残念です。早くもこの状態に戻るよつにみんなで乗り切っていきたい」と話した。

◇第一生命と長久手市が協定 長久手市は2日、第一生命と、市民のがん健診受診率を上げることなどを目的とする「健康づくりの推進に向けた包括的連携に関する協定」を結んだ。コ



締結式であいさつをする宮内支社長＝長久手市役所で

ロナ禍で、受診を控える人が増えることを想定し、締結。同社員が保険加入者らの自宅を訪れる際に、市による検診の案内を届けるなどして、受診を促すという。

宮内敏光名古屋総合支社長は「特に、若い人に重きを置いて勧めていきたい」と話し、吉田一平市長も同意していた。

他には、認知症への理解促進にも取り組む予定という。

◇障害者雇用の農園開設へ 長久手市内で知的障害などのある人の雇用につなげようと、障害者就労支援事業会社「エスブループラス」（東京）が来春、同市茨ヶ畑間に企業向け貸農園「わーくはびねす農園」を

協定を締結した吉田一平市長と和田一紀社長＝長久手市役所で



開く。7日、同市と市役所で協定を結んだ。

同社の事業は、協定を結んだ市内などにビニールハウス農園を整備し、障害者の雇用を希望する企業に貸し出す仕組み。農園で働く障害者の採用手助けや体験就労、就労後のフォローも同社が担っていく。

県内では、豊明市などに続いて6例目となる。